



progress

自分と友だちを守る一歩

(発行)
熊本市教育委員会事務局
学校教育課 総合支援課
学校サポート班
(文責)
指導主事 田中 慎一郎
tanaka.shinichiro@city.kumamoto.lg.jp

エアバックとシートベルト… 子どもを守る



「交通戦争」そう呼ばれた時代がありました。交通事故死者数が、日清戦争での日本側の戦死者数を上回ったことで戦争と名づけられました。理由は、車の増加に加え歩道や信号機の整備不十分。事故に遭ったのは、交通弱者である歩行者が最も多く、特に幼い命が犠牲となりました。

しかし、1970年の1万6765人をピークに今では減少し、2017年は、3694人になりました。ここ数年でも減少傾向が見られ、昨年からも、5.4%減少しています。

しています。車が増えたのと同様、当然事故が増加します。当時と同じ、子どもなどの弱者が被害に遭うのです。また、子どもを守る法律が追いついていません。裸等の写真を撮ったり送らせたりすることは、犯罪になりますが、それも最近できた法律です。まだまだ、子どもを守るには不十分であると言えます。最近のスマートフォンには、新しく保護者がアプリの使用を制限でき

たり、何回端末を持ち上げたか分かる機能もつきました。しかし、それもまだ不十分です。

子どもをスマートフォン等を通してインターネットに触れさせるのであれば、まだ追いついていない部分を大人が責任持ってカバーしなければなりません。いつでも相談に乗れる関係であるエアバックや家庭内のルールであるシートベルト着用義務などがあるかどうか振り返りたいものです。機能や環境の整備と法が追いつくまで、子どもに端末を与えた人の努力で被害を減少させなければなりません。すべては、子どもたちのためにですね。



文房具店に行くとなぜかワクワクしてしまう田中です。デジタルの世の中ですが、やはりメモ帳が離せません。手頃なものがないかと店に行きました。ありました！！値段は100円、手のひらサイズでちょうどいいやつです。早速購入しようとして財布をあけました。32円しかありません(T.T)

しかし、クレジットカードがありました。「すみません、カードは使えますか？」と言った私に「もちろんです！」と笑顔の店員。ネットより、やっぱり面と向かった世界はいいですね。爽やかな印象が直に伝わります。すかさず店員が私に言葉をかけます。

ゲームの対象年齢って知ってますか？

理由は何でしょう。それは、道路や信号等の交通インフラの整備と法律の強化（以前はシートベルトをしていなくても違反になりませんでした）とエアバック等に代表される車の安全性能の向上です。

これをスマートフォンに置き換えてみます。ここ数年でスマートフォンの所持率は上昇しています。加えて低年齢化

子どもたちが熱中するオンラインゲーム。それには、対象年齢が定められていることをご存知ですか。小学生の間でも流行っているゲームの対象年齢は17歳以上とありました。理由は、わいせつなテーマや性的表現ヌードとありました。ゲームの作成者は、「対象年齢以下の子どもがその悪影響を受けても、自分のせ

いではないですよ。だって書いてあったでしょ！」

と言っているのかもしれませんが、「自己責任」という言葉で片付けるにはあまりにも大事にしています。そのゲームが、自分であったものかどうか、する前に一緒に話し合える親子関係を目指したいですね。



「お支払いは一括でいいですか？」

いやいや… さすがに分割は… 「あっ」と小さな声を出して気づいた店員。気づきましたか？（笑）照れくさそうなレジの彼。なんとなく、ほのぼのした空気になりました。こんな失敗もネットだと「マニュアル対応(´o`)キター」のような不寛容で非難にあふれた言葉があふれるのでしょうか…

犯罪が身近にあるインターネットの世界。例えば、オンラインゲームでアカウントを販売するように見せかけて、代金だけ騙し取ったりSNSで裸の画像を送るよう強要したり… 子どもたちが加害者にも被害者にもなるケースがたくさん存在している。▼どんな家庭のルールを作ればそれらの被害から子どもを守る事ができるだろう。

まず、子どもとどんな犯罪加害者になるか考えてみるとよい。守るためにある。ならば、そのリスクを子どもに具体的にイメージさせることが大切だ。中高生の場合は、家庭ルールに加え自分ルールを作ることができるだろう。その場合は自分でイメージしてみるとよい。▼例えば、SNSでむやみに友だちを登録しない。人数は30人まで、あとの追加は保護者に確認を取る。リスクを考えると、小学生なら絶対身元が分かる画像や動画を投稿しない方がよいだろう。子どものためのルールを考えたいものである。

家庭内ルールの作り方 (犯罪編)